

# 弘前城石垣修理

今号から毎月1日号で、大規模な改修を予定している弘前城の天守・石垣の歴史などについての記事を連載します。

## 第1回 ～弘前城本丸東側石垣は いつできたのか？～



△下乗橋から見た天守と本丸石垣（右が東側石垣）

下乗橋から本丸の方向を眺めると、弘前城天守の下から北側に長く続く石垣が目に入ります。この本丸東側石垣には膨らみが確認されており、崩落の危険性があることから、修理工事に入るべく、準備を進めているところです。



築城時（慶長16年・1611）に石垣が築かれなかった部分

＜津軽弘前城之絵図（17世紀半ば・本丸部分、弘前市立博物館蔵）  
弘前城の絵図としては、現存する最古のもの。本丸東側石垣に「石垣ノ築掛三十八間」（現在の長さで約70m）と書かれている。

弘前城は今から約400年前、江戸時代に造られたお城です。築城計画を立てたのは弘前藩初代藩主・津軽為信（たけのぶ）でしたが、工事着手前に亡くなり、その計画は2代・信枚（のぶひら）に引き継がれました。そして慶長16年（1611）、弘前城は完成します。

しかし、実はこの時点では、本丸の石垣には部分的に築かれていない場所がありました。江戸時代の絵図には、本丸東側に石垣の積まれていない部分が描かれています。なぜ石垣の一部が築かれなかったのかについては、今後の発掘調査などの過程で明らかになるかもしれません。

さて、この部分の石垣普請が始まるのは、築城から約80年後のことです。弘前藩は4代・信政（のぶまさ）の時代となっていました。信政は新田開発・産業と文化の振興などに尽力した名君として知られ、西濠の土木工事や城内への松の植栽など、弘前城内の整備にも力を入れています。

元禄7年（1694）5月、藩は石垣普請について幕府から許可を得て、7月に起工式である「御歙（おくわ）初（はじめ）」を行っています。同年9月より本丸未申（ひつじさる）櫓（やぐら）台から工事を始め、翌8年（1695）6月には本丸東側石垣の工事が本格化しますが、この年、弘前藩は冷害による凶作から、一説には領内人口の3分の1が命を落とすほどの大飢饉（ききん）となり、8月には工事を中断しています。

飢饉の影響も残る元禄12年（1699）3月に弘前藩は本丸東側石垣工事を再開し、5月に石垣が完成しました。

本丸東側の石垣は、飢饉という局限状態を経験した弘前藩の人々の記憶とともに積み上げられているのです。

▽本丸東側石垣南端 慶長期に積まれた石垣下部（赤線より下）には加工の少ない石が、元禄期に積まれた上部には四角く形を整えた石が使われ、異なる様相を見せている。



※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧下さい。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/kanko/shisetsu/park/ishigaki.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎33・8739）